

令和5年度『全国学力・学習状況調査』 座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・英語・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

令和5年10月

小学校 国語

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県より下回る結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○学習指導要領の内容および設問から見た傾向や課題

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆日常よく使われる敬語を理解することに課題がある。

情報の扱い方に関する事項

◆原因と結果など情報と情報との関係について理解することにやや課題がある。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。

書くこと

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むこと

◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。

【育てたい力】

日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。
伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係の中において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる

- ・日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるように指導すると効果的である。また、「おっしゃる」や「申す」のように特別な言葉を使った言い方があることや、「お（ご）—になる」や「お（ご）—する」のような言い方があることなどを理解できるようにすることも大切である。

情報の扱い方に関する事項

○原因と結果など情報と情報との関係について理解する

- ・情報と情報との関係を理解するためには、様々な情報の中から原因と結果などの関係を見だし、結び付けて捉えることができるようにすることが重要である。例えば、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりすることが大切である。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる

- ・話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。その際、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切である。

書くこと

○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

- ・伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。

読むこと

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる

- ・文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。そのためには、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることができるように指導することが大切である。また、複数の文章を読むなどして、文章をよく理解したり、自分の考えを広げたりすることができるように指導することも大切である。

小学校 算数

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と計算

◆加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに課題がある。

図形

◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

変化と関係

◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

データの活用

◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。

数と計算、データの活用

◇「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはおおむね良好な結果である。

【育てたい力】

本市の児童は、数と計算、図形などの領域における思考・判断・表現に関する問題に課題がある。特に、理由や求め方、見いだした違い等を記述する問題に対して課題があるため、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすることができるように、思考力・判断力・表現力等を重点的に育てていきたい。また、事象を数理的に捉えて考察する力や数学的な表現を用いて表す力及び算数を生活や学習に活用しようとする態度を養いたい。

○指導改善のポイント

数と計算

○加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるようにする。

- ・計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすることが重要である。例えば、お菓子と飲み物を1つずつ3人分買うなど、具体的な場面について異なる二通りの求め方と答えを比べ、同じ場面を表しているのを、答えが同じになることを理解できるようにする等の指導が考えられる。

図形

○底辺と高さの關係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする。

- ・三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの關係に着目し、三角形の底辺や高さや面積の關係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。面積が等しく、形が異なる三角形の面積について、具体的な値を用いて実際に計算で面積を求め、底辺と高さがそれぞれ等しければ、面積は等しくなることを理解できるようにすることが大切である。

変化と關係

○伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする。

- ・伴って変わる二つの数量について、比例の關係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることが重要である。例えば、問題1(3)を用いて、答えの求め方を考え説明する活動が考えられる。その際は、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について、表などを用いて変化の規則性を基に説明できるようにすることが大切である。

データの活用

○複数のグラフを比べ、見いだしたことを表現できるようにする。

- ・目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。例えば、問題4(3)を用いて、6年生のグラフと、5年生と6年生を合わせたグラフを比べる活動が考えられる。その際、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明できるようにすることが大切である。

小学校【児童質問紙からみた傾向】

本市の児童の調査結果については、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

- ◇「朝食を毎日食べていますか」と「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに対して、「している」「どちらかといえば、している」と答えた児童の割合が多かった。

これは、各家庭において日頃から、朝食を食べること、生活習慣を整えることに対して高い意識を持っている結果であるといえる。文部科学省では、地域社会や学校、家庭が一体となって取り組む「早寝早起き朝ごはん」運動を展開しており、本市の「豊かな心を育むひまわりプラン」の「家庭では」の欄でも、「『早寝・早起き・朝ごはん』を意識して、生活習慣を整えましょう」と示している。規則正しい生活リズムで1日をスタートすることで、余裕をもって学校生活を送ることができるようになり、学習意欲や集中力の向上も期待できる。今後も家庭と連携・協力をしていきたい。

- ◇「人が困っているときは、進んで助けていますか」との問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が多かった。

これは、座間市の教育大綱にある8つの施策で1番目に挙げられている「思いやりと規範意識を育む豊かな心の育成」にある「相手を思いやる心、平和を愛する心、人の役に立つ奉仕の心など、豊かな心を育成します」や「豊かな心を育むひまわりプラン」の「こんな大人になってほしい」にある「温かな心で人とかがわり合い、奉仕の心で人の役に立つ」にもつながるものといえる。

学校・地域・家庭が一体となった教育が展開されていく中で、このような心が多くの子どもたちの中に育まれていけば、愛ある人づくり・まちづくりが加速し、そこに生きる人々の知恵も大きく豊かに膨らんでいくものだろう。今後も力を入れて取り組んでいきたい大切なポイントである。

- ◇「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対して、「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と答えた児童の割合が多かった。

文部科学省によるGIGAスクール構想の推進により、本市でも、1人1台端末を整備してから2年が経過し、ICTを活用する環境が整ってきた。学校では、ICTを授業や委員会活動等で活用するなど、児童が使用する機会が増えたことから、その有効性を実感できたことが要因と考えられる。

今後もICTを活用した学びの充実を図るとともに、ICT機器の普及した社会において、児童が情報や情報機器を主体的に選択・活用したり、情報を適切に発信・受信したりしていくための基礎的な資質や能力、情報モラルの育成にも努めていきたい。

- ◆「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」との問いに対して、「1時間未満」と答えた児童の割合がやや多かった。

「豊かな心を育むひまわりプラン」にある「こんな大人になってほしい」という将来成長してほしい大人像について「目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する」という項目がある。週末は、習い事や家族との時間、地域の行事等で、多忙な児童が多いと思われるが、学習習慣がとぎれることなく、継続されていくことは、成長著しいこの時期に大切なことである。時間を有効活用し、充実した学習時間の確保を促すような取組を継続的に行っていきたい。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容であるが、近年は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことも要因と考えられる。

徐々に地域の行事も再開され、昨年度からはコミュニティ・スクールが全校で導入となっている。コミュニティ・スクールでは、学校と地域と家庭が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができる。

地域の方々に学校の教育活動への積極的な参画を促し、子どもたちの学びや体験活動がより充実できるよう働きかけ、児童と地域とのつながりが深まるように取り組んでいきたい。

中学校 国語

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○学習指導要領の内容および設問から見た傾向や課題

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。

我が国の言語文化に関する事項

◆歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

◆目的や場面に応じて質問する内容を検討することにやや課題がある。

書くこと

◇読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることはおおむね良好である。

読むこと

◆観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることにやや課題がある。

【育てたい力】

社会生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。

伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

言葉の特徴や使い方に関する事項

○漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

- ・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。漢字の書きについては、文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

我が国の言語文化に関する事項

○音読に必要な文語のきまりについて理解する。

- ・古典の文章を音読しながら、歴史的仮名遣いで書かれている言葉を確認するなど、音読することによって、現代の口語との違いに気付くことができるように指導することが効果的である。また、歴史的仮名遣いで書かれている言葉をどのように読むのかを確認し、その規則性について整理しながら確認するなど、古文特有のきまりについて、教材に即して指導することが大切である。

話すこと・聞くこと

○目的や場面に応じて質問する内容を検討する。

- ・情報を集めるためにインタビューなどをする際には、何のために、誰を対象に、どのような状況で話したり聞いたりするのかを具体的に考えながら話題を設定し、質問の内容や順番を検討することが大切である。その際、考えた質問が目的や相手、状況に合っているかどうかを判断できるように指導することが重要である。

読むこと

○観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える。

- ・説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要である。その際に、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが大切である。

中学校 数学

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と式

◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみることはおおむね良好である。

図形

◆空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかにやや課題がある。

関数

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することにやや課題がある。

データの活用

◇累積度数の意味を理解していることは良好である。

◆複数の集団のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することにやや課題がある。

【育てたい力】

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育てたい。

また、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育てたい。

○指導改善のポイント

図形

○空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを観察や操作などの活動を通して理解できるようにする

- ・空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。その際、「2点を含む平面は一つに決まる。」や「一つの直線上にある3点を含む平面は一つに決まる。」など、条件として不十分なものを取り上げ、平面が一つに決まるにはさらにどのような条件が必要かを考察する活動を取り入れることが考えられる。その際、図や具体物を用いて観察や操作をすることを通して、一つの直線を含む平面が幾つもあることを捉え、その上で、同一直線上にない3点で平面が一つに決まることを確認することが大切である。

関数

○問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

- ・様々な問題を、数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明できるように指導することが大切である。具体的には、「グラフの交点のy座標を読み取ればよい。」「二つの直線の式から連立方程式をつくり、それを解いてyの値を求めればよい。」などのように数学的に説明できるようにすることが大切である。その際、「交点の座標を読めば分かる。」のような十分でない説明を取り上げて吟味し、「二つの直線のグラフの交点からy座標を読めば分かる。」のようなより洗練された表現に高めていくことが考えられる。

データの活用

○データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。

- ・データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが大切である。そのために、具体的な事象を用いて、判断できる理由について箱ひげ図を比較することで検討し、数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが考えられる。その際、判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切である。

中学校 英語

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

聞くこと

- ◇ 状況を描写する英語を聞き、情報を正確に聞き取ることは、おおむね良好な結果である。
- ◆ 具体的な場面における会話を聞き、情報を正確に聞き取ることにやや課題がある。

読むこと

- ◇ 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことは良好な結果である。
- ◆ 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることにやや課題がある。

書くこと

- ◇ 未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことは、良好な結果である。
- ◇ 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことは、良好な結果である。

話すこと

- ◇ 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することは、おおむね良好な結果である。
- ◆ 疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することはやや課題がある。

【育てたい力】

「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築すること（外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせること）が重要である。

外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、この「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、「見方・考え方」を確かめ豊かなものとし、「理解する」「表現する」という単に受け手となったり送り手となったりする単方向のコミュニケーションだけでなく、「伝え合う」という双方向のコミュニケーションの力を養いたい。

○指導改善のポイント

聞くこと

- 学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようになる
- ・情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。
- ・自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションになれる活動や意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動に取り組み、「技能」を身に付けられるようにしていく。そのためには、これらの学習活動を一時的なものにせず、言語活動を行う際に、継続的に行っていくことが必要である。
- ・情報を正確に聞き取るためには、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をしていくことも大切である。

読むこと

- 意見文を読んで、要点を捉えることができるようになる
- ・意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。
- ・地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読み、イラストや写真、図表なども参考にしながら、筆者の主張を数文でまとめる言語活動などに取り組むことが考えられる。
- ・言語活動を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。

話すこと

- 対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができるようになる
- ・対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要である。
- ・会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする言語活動に取り組むことが考えられる。
- ・疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことも大切である。

中学校【生徒質問紙からみた傾向】

本市の生徒の調査結果については、全国・神奈川県の結果とほぼ同様でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

◇「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえ
ば、当てはまる」と答えた生徒の割合が多かった。

生徒が自己肯定感を高めるためには、自己理解や自己受容を進めるとともに、様々な体験を通して
成就感や達成感を味わったり、他者から認められたりして、自分への肯定的な気付きを促す
ことが大切である。

また、「豊かな心を育むひまわりプラン」では、「子どもたちは、家庭、地域、学校などで様々
な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によ
って何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができます。」と
示している。今後も学校、地域、家庭が協力し、子どもの「豊かな心」の芽生えを見つけ大切に
育み、一人一人のその子らしさを大切にしていきたい。

◇「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との
問いに対して、「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と答えた生徒の割合が多
かった。

文部科学省によるGIGAスクール構想の推進により、本市でも、1人1台端末を整備してから
2年が経過し、ICTを活用する環境が整ってきている。学校では、ICTを授業や委員会活
動等で活用するなど、生徒が使用する機会が増えたことから、その有効性を実感できたことが要
因と考えられる。

今後もICTを活用した学びの充実を図るとともに、ICT機器の普及した社会において、生
徒が情報や情報機器を主体的に選択・活用したり、情報を適切に発信・受信したりしていくため
の基礎的な資質や能力、情報モラルの育成にも努めていきたい。

◇「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わ
るよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」との問いに対して、「発
表していた」「どちらかといえば、発表していた」と答えた生徒の割合がやや多かった。

中学校では、小学校で培われた「自分なりに考えていることや、感じていること等を、わかり
やすく相手に伝えるように発表する力」をさらに伸ばしていくことは、どの教科においても肝要
である。自身の思いを相手と正確に伝え合うことは、学習の場面だけでなく生活の場面におい
ても生かされ、生徒自身の成長の機会をより確かなものにしていくといえる。

また、座間市教育大綱の中で取り上げられている「書く力の向上を中心とする新しい時代に必要となる力の育成」の観点からも、順序を整理し、より効率的・効果的に伝えることは、文章の構成力の向上とともに、書く力の向上にも結びつき、豊かな表現力の育成にもつながっている。このような日常的な取組が、生徒の自立した学校生活の土台づくりにもつながっているといえる。

- ◆「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」との問いに対して、「全くしない」と答えた生徒の割合が多く、「30分未満」と答えた生徒の割合はやや多かった。

子どもにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

本市では、各学校に学校図書館司書を配置している。学校図書館司書は、季節に応じた装飾や国内外の情勢に関連した展示や掲示など、その時々に応じた様々な取組を行い、生徒が落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境を整えている。また、図書の紹介や、調べ学習について援助を行うなど読書活動の推進を図っている。

また、学校・地域・家庭が一体となって推進していくことで、より幅広い知識を身に付け豊かな心を育むことにつながるため、今後も協力して読書活動の推進として継続的な取組が大切だと考え、取り組んでいきたい。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容であるが、近年は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことも要因と考えられる。

徐々に地域の行事も再開され、昨年度からはコミュニティ・スクールが全校で導入となっている。コミュニティ・スクールでは、学校と地域と家庭が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができる。

地域の方々に学校の教育活動への積極的な参画を促し、子どもたちの学びや体験活動がより充実できるよう働きかけ、児童と地域とのつながりが深まるように取り組んでいきたい。